Ⅳ．分担研究年度終了報告 (3)

サリドマイド胎芽症患者の呼吸機能検査値に関する検討

研究分担者　長瀬　洋之　　帝京大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー学

A. 研究目的

サリドマイド胎芽症患者も 50 才を超え、喫煙による健康影響が懸念される年代となっている。検診では喘鳴を聴取する例もあり、喫煙者においては慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の発症も懸念される。また、胎芽症患者における、上肢障害をはじめとする骨格系の形成不全が呼吸機能に及ぼす影響については全く検討されていない。そこで、サリドマイド胎芽症患者における 50 才時の呼吸機能検査値を、平成 24 ～ 25 年度健診事業結果より検討し、換気障害の頻度を調査した。

B. 研究方法

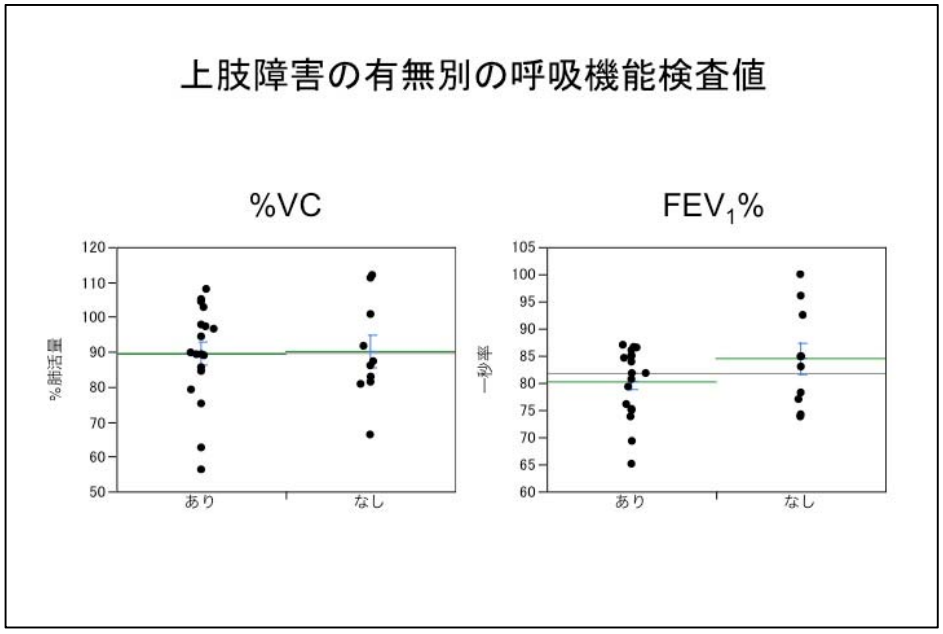
平均年齢が 50 才時に施行された、平成 24 ～ 25 年度サリドマイド胎芽症患者に対する健診事業結果において、呼吸機能検査が施行されている 28 例 (男性 14 例 , 女性 14 例) につき、解析した。

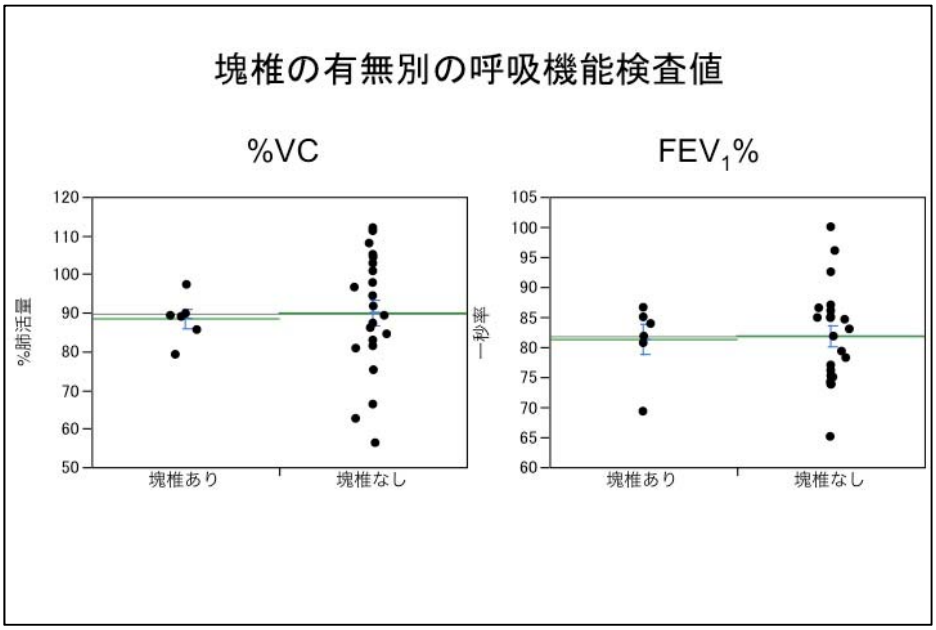
C. 研究結果

呼吸機能検査値は、全体としては、%肺活量 (% VC) は 89.6 ± 2.6%、1 秒率 (FEV1%) は 81.7 ± 1.4%と保たれていた（平均値 ± 標準誤差 , n=28)。

しかしながら、拘束性換気障害 (% VC < 80%) を 5 例で認め (男性 4 例 , 女性 1 例)、うち 4 例に上肢障害を認めた。画像的には 1 例で心拡大、1 例で両側の板状無気肺を認めたが、2 例では胸部レントゲン写真や胸部 CT での異常所見は認めなかった。また、閉塞性換気障害 (FEV_1% < 70%) を 2 例で認め (男性 2 例)、2 例とも上肢障害を認めた。1 例は上記の板状無気肺例で、他の 1 例は画像に異常を認めなかった。上肢障害の有無別では (有 : 18 例 , 無 : 10 例)、% VC に差はないが (有 vs 無 , 89.3 ± 3.3% vs 90.1 ± 4.5%)、FEV_1%は上肢障害例で低値傾向であった (80.2 ± 1.5% vs 84.5 ± 2.9% , 図)。異常所見率は、% VC (14.3% vs 3.6%), FEV_1% (7.1% vs 0%) ともに、上肢障害例で頻度が高く、上肢障害を有しない場合、閉塞性換気障害は認めなかった。

塊椎の有無別では、呼吸機能検査値に有意な差を認めなかった (下図)。





D. 考察

閉塞性換気障害は、上肢障害との関連が示唆され、上肢障害と呼吸筋力低下が関連している可能性が考えられた。一方、今回は喫煙状況との関連については検討できていないため、今後さらなる検討を要する。

E. 結論

現時点では、サリドマイド胎芽症に特有の呼吸器疾患や、呼吸機能障害は顕在化していない。しかし、重要な点は、上肢障害を有するサリドマイド胎芽症患者が喫煙を継続すると、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に至るリスクが高い可能性が示唆され、特に禁煙が望ましい。今後は、喫煙中の胎芽症患者を中心に、呼吸機能検査の定期施行と、禁煙啓発が望ましいと考えられた。健診事業における、喫煙者への呼吸機能検査施行と、胎芽症患者全体を対象とした喫煙実態調査が必要である。

E. 研究発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

なし